

気象情報の利活用環境の充実について

気象庁

気象ビジネス市場の創出

- IoTやAI等の技術の進展により、農業、小売業、運輸業をはじめとする幅広い産業において気象データを利用した生産性の飛躍的向上が見込まれるが、企業等においては気象データを高度に利用する取組は未だ低調。
- 産業界と気象サービスのマッチングや気象データの高度利用を進める上での課題解決を行う「**気象ビジネス推進コンソーシアム**（仮称）」を立ち上げ、IoTやAI等の先端技術を活用した**新たな気象ビジネスの創出・活性化**を強力に推進。

現状・課題

- ・ 農業の生産管理等、気象データ活用の先進的事例が生まれつつあるが、活用する国内企業は少ない
- ・ 気象データは、先端技術や他データと組合わせた活用による生産性向上の潜在力はあるが、使われてない「**ダークデータ**」

課題1: 産業界が求める気象サービス※1の提供

※1 気象データを活用したビジネス支援サービス

課題2: 新たな気象ビジネス※2を実現する対話・連携

※2 IoT・AI技術を駆使し、気象データを高度利用した産業活動

【気象ビジネスの具体例（米国）】

- ・ 米国海洋大気局（NOAA）のリアルタイム気象情報等を活用
- ・ 土壌モニタリングや農業機器の稼働情報等を組合わせ、生産管理等の高度な農業クラウドソリューションを提供



図: The Climate Corporation社ホームページより

【データ分析している企業等の割合】

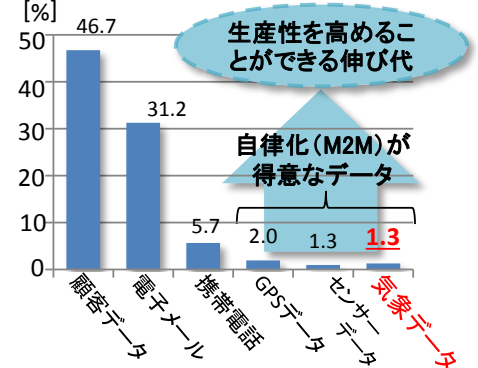


図: 「平成27年版情報通信白書」(総務省)より作成

具体的施策

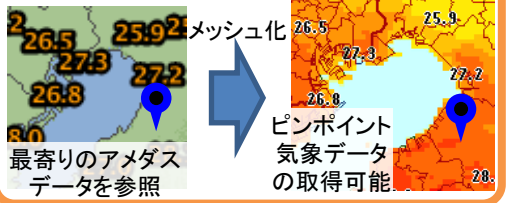
気象サービス強化

気象ビジネス連携強化

③ 気象サービスと産業界のマッチング

① ユーザーコンシャスな気象情報の提供

- ・ 新たな気象データの提供
- ・ 過去データのアーカイブ整備
- ・ 情報利用環境の高度化



② 気象サービスの体質強化

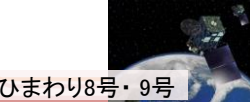
- ・ 気象サービスに必要なノウハウを全国的に展開
- ・ 気象予報士の育成等によるソフトインフラ整備

気象ビジネス推進コンソーシアム（仮称）

- ・ 先進的気象ビジネスモデルの創出
- ・ 気象ビジネス推進の環境整備
- ・ 気象ビジネスフォーラムの開催

気象庁

- ・ 観測、予測データの提供等、気象ビジネスの基盤となる支援を推進



気象サービス

- ・ 気象情報の仲介・加工
- ・ 事業コンサルティング(気象特性を踏まえた事業体制構築の支援)
- ・ 気象情報や先端技術を用いたシステム高度化

産業界

- ・ 先端技術を活用した、気象リスクの管理や先手を打った収益追及



2020年までにGDP押上効果として約2,000億円(注)を実現

(注) 農業における冷害被害回避、小売における適正在庫管理、気象事業者の売上増等による効果を試算

気象ビジネス推進コンソーシアム(仮称)の構築

- **産学官が連携して気象ビジネスを推進**するため、気象事業者に加えて、情報通信、農業、小売、金融、電力等の関係する産業界やIoT、AI等の先端技術に知見のある学識経験者等を構成員とした**コンソーシアムを構築**。
- IoT、AI等の先端技術を活用した**先進的なビジネスモデルの創出**や、気象衛星・レーダー等の技術的進歩に対応した**新しい気象情報の利活用**を進めるとともに、気象情報高度利用ビジネスを推進するために**継続的な情報改善や人材育成などの環境整備**を実施。

【今後のスケジュール】平成28年度内 コンソーシアム発足（気象ビジネスフォーラム開催）

気象ビジネス推進コンソーシアム

先進的気象ビジネスモデルの創出

- 関連技術の進歩に応じた気象情報の利活用の促進
- 世界最高水準の技術の気象ビジネスへの展開

気象ビジネス推進の環境整備

- ユーザーとの対話を通じた継続的な情報改善
- 気象情報高度利用ビジネスに係る人材育成

気象ビジネスフォーラム

- 産学官関係者が一堂に会する対話の場
- 気象事業者と産業界のマッチング

産学官連携による気象ビジネスの共創

